

初出一覧

《注》以下のカッコ内に示すのは、本研究の各章・各節のもとになった論文の出典であるが、本研究に際してはすべて改稿および一部改題している。

第Ⅰ部 サブカルチャー教材を用いた授業の可能性

序章 サブカルチャー教材による国語科授業開発の課題と方法

第1節 なぜサブカルチャーを取り上げるのか

(日本文学協会「日本文学」1998. 11)

第2節 境界線上の教材開発論—サブカルチャーの教材価値を探る

(明治図書「教育科学国語教育」2005. 2)

第3節 サブカルチャー教材による授業開発に向けて—学習者の興味・関心の喚起を目指すために

(東京法令出版「月刊国語教育」2003. 11)

第1章 サブカルチャー教材の可能性

第1節 国語科におけるサブカルチャー教材の可能性を探る—教育現場へのアンケート調査に即して

(早稲田大学教育学部「学術研究」2005. 2)

第2節 サブカルチャー教材による授業開発—メディア・リテラシーの授業論とからめて

(早稲田大学教育学部「学術研究」2003. 2)

第2章 国語科の授業開発の可能性—学習者の興味・関心喚起の方略を求めて

第1節 国語教育のインタラクティブ—授業活性化への一視点

(日本国語教育学会「月刊国語教育研究」1994. 2)

第2節 作文指導の戦略—書くことへ向かう意志を育てる

(早稲田大学国語教育学会「早稲田大学国語教育研究」1999. 3)

第3節 大学における「国語表現」の授業構想—サブカルチャー教材の可能性を探るために

(早稲田大学大学院教育学研究科「教育学研究科紀要」2004. 3)

第4節 声の復権と国語教育の活性化

(日本国語教育学会「月刊国語教育研究」2003. 9)

第5節 授業のシステムとルールを創る

(東京法令出版「月刊国語教育」2003. 4)

第Ⅱ部 サブカルチャー教材開発と授業開発

第3章 漫画(静止画)系列サブカルチャー教材化とその実践

第1節 国語科教材としての漫画—その可能性を探る

(東京法令出版「月刊国語教育」1993. 10)

第2節 教室で「童夢」を読む—ストーリー漫画教材化の試み

(日本国語教育学会「月刊国語教育研究」1992. 9)

- 第3節 『プチ哲学』の表現指導
(早稲田実業学校「研究紀要」2003. 3)
- 第4節 絵画・写真を用いた表現指導の展開—見ることから書くことへ
(早稲田実業学校「研究紀要」2003. 3)
- 第4章 映像・アニメーション系列サブカルチャー教材化とその実践
- 第1節 映像を用いた国語教育—映画とテレビドラマの教材化
(解釈学会「解釈」2005. 6)
- 第2節 言語と映像の接点を探る—国語科メディア・リテラシー教育の一環として
(日本国語教育学会「月刊国語教育研究」2004. 3)
- 第3節 アニメーションを用いた授業の創造
(東京法令出版「月刊国語教育」2000. 3)
- 第5章 音楽・ゲーム系列サブカルチャー教材化とその実践
- 第1節 歌詞を用いた授業—単元「日本のうた」の実践
(早稲田実業学校「研究紀要」2000. 3)
- 第2節 音楽を取り入れた授業の創造
(東京法令出版「月刊国語教育」2001. 1、2001. 2)
- 第4節 「子ども文化」からの出発—「ドラゴンクエストIV」を用いた表現指導の試み
(早稲田実業学校「研究紀要」1991. 3)
- 第5節 国語科で創作をどう扱うか—テレビゲームの教材化
(早稲田大学教育学部「学術研究」2006. 2)
- 第6章 その他系列のサブカルチャー教材化とその実践
- 第1節 「交流作文」の可能性を探る—高・大連携の実践に即して
(早稲田大学教育学部「学術研究」2007. 2)
- 第2節 傷は癒されるか—村上春樹『アンダーグラウンド』の授業
(早稲田実業学校「研究紀要」1998. 3)
- 第3節 中学生と演劇を楽しむ
(早稲田実業学校「研究紀要」1999. 3)
- 第7章 「文化」と「ことば」を結ぶために
- 第1節 新しい言語単元の可能性を探る—単元「ことばと文化」の実践に即して
(早稲田実業学校「研究紀要」1992. 3)
- 第2節 漢字・語彙指導の工夫—「ワード・フレーズハンティング」を通して
(日本国語教育学会「月刊国語教育研究」2007. 1)
- 第Ⅲ部 研究の成果と課題
- 終章 学習者の興味・関心喚起の方略の提案
- 第1節 サブカルチャー教材論—サブカルチャーの教材価値をめぐって
(東京法令出版「月刊国語教育」2003. 11)

第2節 サブカルチャーによる授業開発論—今後の可能性を探る

(「日本語学」1998. 11, 明治書院)

第3節 サブカルチャー教材を用いた国語科カリキュラム構築のために

(東京法令出版「月刊国語教育」2003. 7)

第4節 これからの研究の課題

(早稲田大学大学院教育学研究科「教育学研究科紀要」2005. 3)